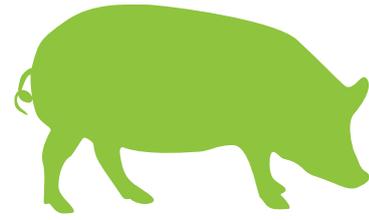


豚肉

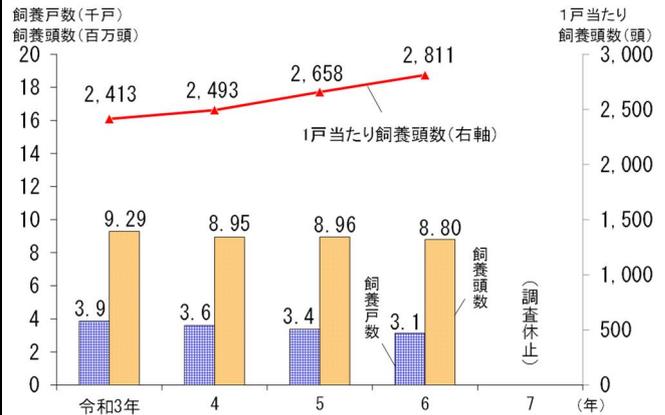


◆飼養動向

6年2月現在の1戸当たり飼養頭数、前年比5.8%増

豚の飼養戸数は減少傾向で推移しており、令和6年は、3130戸（前年比7.1%減）と前年からかなりの程度減少し、総飼養頭数も880万頭（同1.8%減）と前年からわずかに減少した（図1）。一方、1戸当たり飼養頭数は、153.3頭増加して2810.9頭（同5.8%増）となった。また、子取り用雌豚の1戸当たりの飼養頭数も17.4頭増の317.3頭（同5.8%増）となった。小規模生産者を中心として飼養戸数が減少し、1戸当たり飼養頭数は増加傾向にある。

図1 豚の飼養戸数および飼養頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」
 注1：各年2月1日現在。
 注2：令和7年は農林業センサス実施年のためデータなし。

◆生産

6年度の生産量、前年度比1.6%減

豚のと畜頭数は、近年増加傾向で推移していたものの、廃業による飼養戸数の減少などにより3年連続で減少し、令和6年度は、1614万8499頭（前年度比1.5%減）と前年度をわずかに下回った（図2）。

また、同年度の1頭当たりの平均枝肉重量は、79.1キログラムと前年度並みとなった。なお、5年1月1日より26年ぶりに豚枝肉取引規格が改正され、各等級の重量範囲について上限・下限ともに3キログラムずつ引き上げられている。

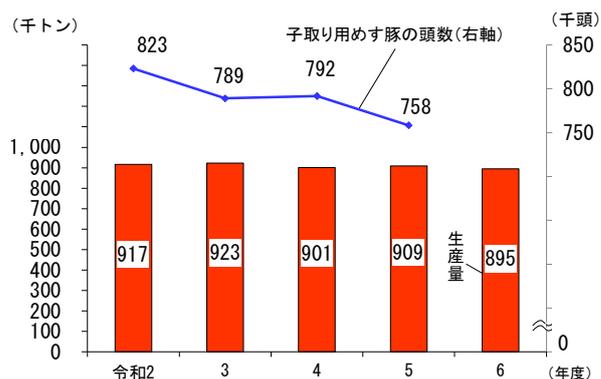
図2 豚のと畜頭数および平均枝肉重量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」
 注：平均枝肉重量は全国平均。

生産量についても、同年度は、と畜頭数が減少したことから、89万4534トン（同1.6%減）と前年度をわずかに下回った（図3）。

図3 豚肉生産量および子取り用めす豚の頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」、「食肉流通統計」
 注1：生産量は、部分肉ベース。
 注2：子取り用めす豚の頭数は、各年度2月1日現在。令和6年度は農業センサス実施年のためデータなし。

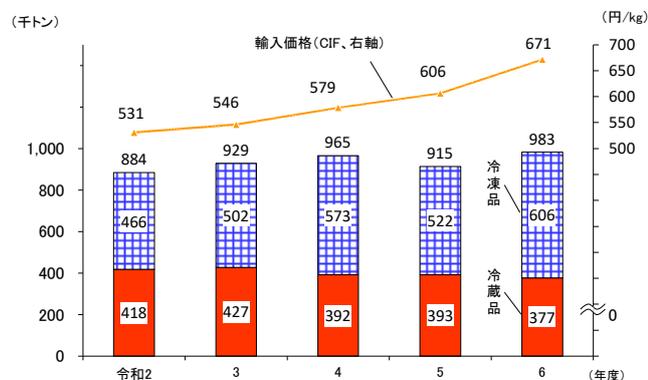
◆ 輸入

6年度の豚肉輸入量、前年度比7.5%増

豚肉

豚肉の輸入量については、冷蔵品・冷凍品ともに、国内での堅調な需要などから近年増加傾向で推移している。

図4 豚肉の輸入量および輸入価格の推移

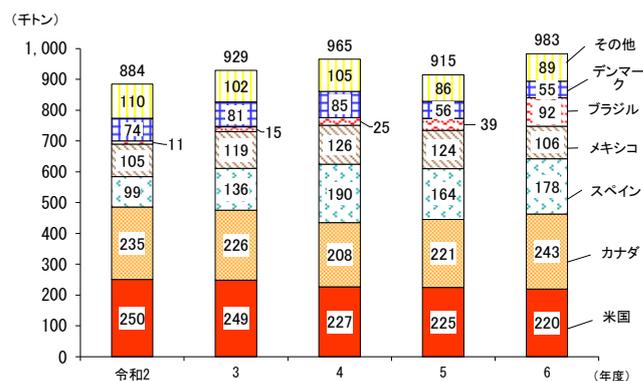


資料：財務省「貿易統計」
 注1：部分肉ベース。
 注2：合計にはくず肉を含む。

令和6年度は、98万3276トン（前年度比7.5%増）と前年度をかなりの程度上回った（図4）。このうち、冷蔵品は現地相場高や為替相場の影響などにより米国産が減少したことなどから、37万6866トン（同4.0%減）と前年度をやや下回った。一方、冷凍品は価格優位性のあるブラジル産が増加したことなどから、60万6284トン（同16.2%増）と前年度を大幅に上回った。

また、同年度の国別輸入量は、ブラジル産が9万1936トン（同136.3%増）、カナダ産が24万3486トン（同10.1%増）、スペイン産が17万8370トン（同8.7%増）と前年度から増加した一方、メキシコ産が10万6073トン（同14.4%減）、米国産が21万9789トン（同2.2%減）、デンマーク産が5万4767トン（同1.6%減）と前年度から減少した（図5）。

図5 豚肉の国別輸入量の推移



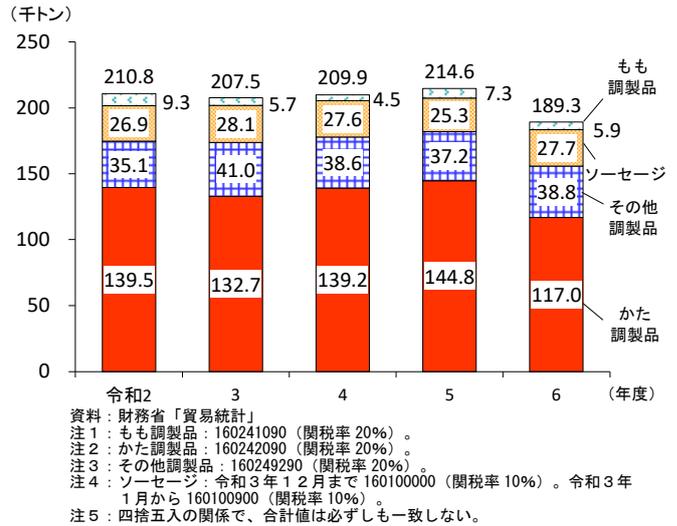
資料：財務省「貿易統計」
 注1：部分肉ベース。
 注2：くず肉を含む。
 注3：四捨五入の関係で、合計値は必ずしも一致しない。

豚肉調製品・ソーセージ

豚肉調製品やソーセージの輸入量については、底堅い需要がある中で、現地相場の変動に伴う増減を繰り返している。

令和6年度の豚肉調製品の輸入量は、ソーセージ、その他調製品の輸入量が前年度を上回った一方、かた調製品、もも調整品の輸入量が前年度を下回った結果、全体では18万9343トン（前年度比11.8%増）と前年度をかなり大きく下回った（図6）。

図6 豚肉調製品およびソーセージの輸入量の推移



消費

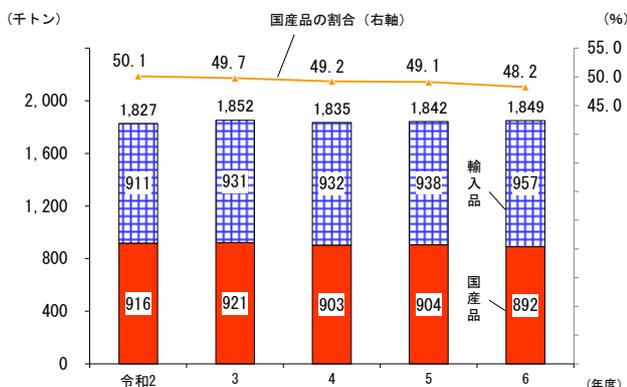
6年度の推定出回り量は前年度比0.4%増、家計消費量は同1.9%減

推定出回り量

豚肉の推定出回り量は、堅調な豚肉消費を背景に近年増加傾向で推移している。

令和6年度は、国産品は89万1880トン（前年度比1.4%減）と前年度をわずかに下回った一方、輸入品は95万7280トン（同2.1%増）と前年度をわずかに上回った（図7）。この結果、全体では184万9160トン（同0.4%増）と前年度をわずかに上回った。なお、合計に占める国産品の割合は48.2%（同0.9ポイント減）と前年度を下回った。

図7 豚肉の推定出回り量の推移



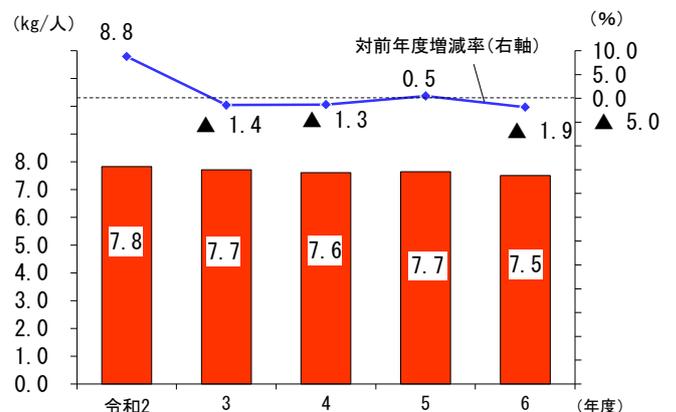
資料：農畜産業振興機構推計

注1：部分肉ベース。
 注2：四捨五入の関係で、合計値は必ずしも一致しない。

家計消費

豚肉消費の約6割を占める家計消費については、年間1人当たりの豚肉の家計消費量を見ると、令和2年度に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響による巣ごもり需要により増加し、その後も、物価上昇による牛肉からの需要のシフトなどを背景に横ばいで推移している（図8）。6年度は、7.5キログラム（前年度比1.9%減）と前年度をわずかに下回った。

図8 豚肉の家計消費量（年間1人当たり）の推移



資料：総務省「家計調査報告」

注：1世帯当たりの数値を世帯人数で除して算出

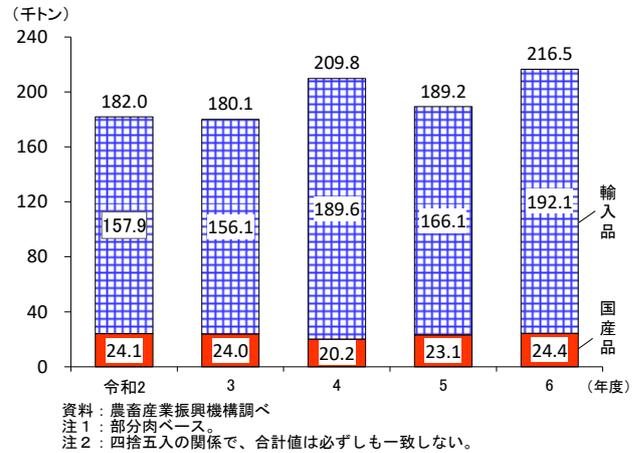
◆在庫

6年度の推定期末在庫量、前年度比14.4%増

豚肉の推定期末在庫量については、約9割を輸入品が占めており、そのうち9割強を冷凍品が占めている。このことから、推定期末在庫は輸入量の影響を受け、増減を繰り返しながら推移している。

令和6年度は、国産品は、2万4424トン（前年度比5.7%増）と前年度をやや上回った（図9）。輸入品も、19万2115トン（同15.6%増）と前年度をかなり大きく上回った。この結果、合計では21万6539トン（同14.4%増）と前年度をかなり大きく上回った。

図9 豚肉の推定期末在庫量の推移



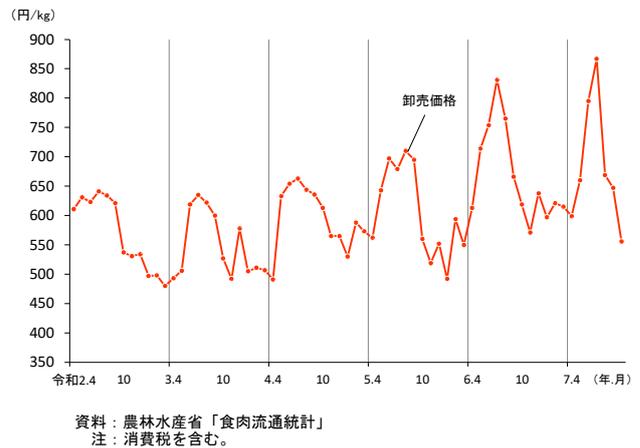
◆枝肉卸売価格

6年度の枝肉卸売価格、前年度比10.4%高

豚枝肉卸売価格（東京、上規格）は、出荷頭数が少なくなる春から夏にかけて上昇基調で推移し、出荷頭数の増加する秋ごろから低下する傾向にある。

令和6年度は、節約志向の高まりなどによる需要の増加により、国産豚肉の引き合いが高く、価格は堅調に推移した（図10）。年度平均では、1キログラム当たり667円（前年度比10.4%高）となった。

図10 豚枝肉の卸売価格（東京、上規格）の推移

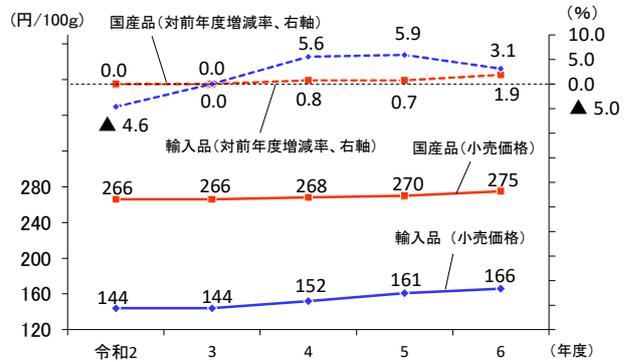


◆小売価格

6年度の小売価格、国産品および輸入品のいずれも上昇

令和6年度の豚肉の小売価格（ロース）については、国産品は、節約志向の高まりなどによる需要の増加などにより、100グラム当たり275円（前年度比1.9%高）と前年度をわずかに上回った（図11）。輸入品は、為替相場や現地相場高の影響により、同166円（同3.1%高）と前年度をやや上回った。

図11 豚肉の小売価格（ロース）の推移



資料：農畜産業振興機構調べ
注：消費税を含む。